

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文概要

論文題目

フレーミングの並置および重層による建築空間の実践的研究

Architecture Design by juxtaposition and overlay of framing

申請者

| | |
|-------|--------|
| 平瀬 | 有人 |
| Yujin | HIRASE |

2016年12月

フレーミングとは「ある空間にいながら、その外側にある別の空間を感じさせる」ための建築設計手法の一つだと考えられるが、「フレーミングの並置および重層による建築空間の実践的研究」と題する本論は、そうしたフレーミングを複数重ね合わせることの特徴や有用性を絵画・映像・建築空間における歴史的系譜を踏まえて考察するとともに、本研究をベースにした建築作品の実践と併せて、絵画的手法を取り入れた建築空間モデルを提示し、建築設計論としてまとめたものである。

本論は次の4つの章と、各章を要約した終章から構成されている。

まず第1章では、論の背景として、建築空間におけるフレーミングの役割についてまとめた。そもそも建築には建築以外の自然やものの見方を規定するという側面がある。自然科学の世界では顕微鏡や望遠鏡など様々な観測装置の発達によって我々が体験できる世界が広がり、様々な知見が得られたように、建築も建築以外の自然やものを観測し、切りとるフレームのような装置として存在することで建築の建つ場所の指標(INDEX)としての役割を果たすのではないだろうか。我々はフレームを通じて、世界をより良く知ることができるようになるのであろう。外部環境を切りとるフレームは「風景の観測装置」として、内部の人の存在を滲み出させるフレームは都市の中では「風景の構成要素」として、建築は二つのまなざしを提供するのである。

建築においていかに世界をフレーミングするか、という点が重要な側面であると考えているが、特にカルロ・スカルパの建築作品にはそのような観点から示唆すべきものがある。フレーミングによって観察者に視点を与える「絵画的手法」こそがスカルパのデザインの根幹的手法と考えられるが、さらに複数のフレーミングを重ね合わせるところに特徴がある。

複数のフレーミング、すなわち注視する対象が重ね合わされるマルチ・フレーミングによって、空間それ自身が観察者に能動的に働きかけ、観察者の空間経験は豊かなものになる。言いかえると、ある固定化されたシーンをつくりだすのではない自由な視線の運動を喚起する空間である。同一の場所に存在する多くの視点を観察者が結びつけながら体感する空間、多視点が連続していく空間をスカルパはつくりだしていると言えよう。すなわちそれは「時間」を即物的にデザインしていると言える。

多視点という点で、複数の視点による対象の把握という「キュビズム」はマルチ・フレーミングとも近似した概念ではあるが、前者が主に複数の視点を重ね合わせて描かれた1枚のタブローのことを指すのに対して、後者は人が中に入って移動しながら見る複数の視線を重ね合わせた空間という違いが大きい。

第2章では、絵画や映像におけるフレーミングの系譜を概観し、事例を考察している。フレーミングという手法は、建築のみならず絵画や映像においても重要な役割を果たしてきた。アルベルティは遠近法による絵画を「透明な窓(=フレーミング)」と位置づけていたが、イタリア・ルネサンスの美術においては遠近法はあくまでもその手段でしかなく、アルベルティのフレーミングの向こう側にあるのは、詩人たちのテキストにもとづく舞台であり、物語を語るのが主な目的である。それと対照的に17世紀オランダ美術においては、物語への言及がおさえられ、フレーミングのフレーム内には収まらない目に見える表面を描写することがもっぱら好まれた。画面上に広がるイメージは、キャンバスを超えてはてしなく続いていくかぎりない世界の断片であるように思われる。ルネサンス期の宗教画では中心に位置されることで象徴的に機能していた遠近法の単一の消失点が、オランダ絵画においては複数の遠近法を用いることで、単一視点からの眺めが犠牲にされ、各面の集合体となっているのである。複数のフレーミングを導入することで、視線が微妙にずらされ、部屋から部屋へ、そして窓の外側へと視線が流れていくように意図されており、多数の部屋がつながってひとつの枠では収まりきらない連続的光景を描き出すことで、鑑賞者の視線誘導の役割を果たしている。

また、セルゲイ・エイゼンシュテインや小津安二郎の映画といった映像においても、複数のフレーミングの重なり合いを演出することで視線の動きを誘発する手法をみることができる。

第3章では、まず西洋建築・日本建築におけるフレーミングについて整理し、主に西洋的空間概念を援用した建築空間におけるフレーミング手法の系譜をまとめた。フレーミング手法を、「穿たれた開口としてのフレーミング(FRAME)」・「遮蔽するフィルターとしてのフレーミング(FILTER)」・「鏡面による虚像のフレーミング(VIRTUAL)」の3つに類型化し、それらに関連する事例の考察・分析を行った。

「穿たれた開口としてのフレーミング(FRAME)」は、サーフェイス・ボリュームから見せたい風景を切りとるように孔を穿つピクチャーフレームとしてのフレーミングである。「遮蔽するフィルターとしてのフレーミング(FILTER)」は、床や壁・軒のエッジがフレーミングとなって「むこう」を表象するものであり、遮蔽するフィルターとしての役割を果たす。「鏡面による虚像のフレーミング(VIRTUAL)」とは開口部越しの実像をフレーミングするのではなく、鏡が置かれることでそこに虚像がフレーミングされ、空間を錯乱させる手法である。鏡に風景が反射して様々な風景がフレーミングされ、虚像と実像が交錯する。

第4章では、マルチ・フレーミング手法による建築空間モデルを設計試案として提示するにあたり、まず<並置 juxtaposition>および<重層 overlay>によ

る複数のフレーミングを重ね合わせる手法を「マルチ・フレーミング手法」と定義し、第3章でのフレーミング手法の系譜を元にマルチ・フレーミング手法に関するマトリックスにまとめた。

さらに本研究をベースに設計した建築作品《富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー》、《代々木の住宅》、ほか2作品及びプロポーザル作品での実践を紹介し、その手法の考察を行った。

《富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー》では正方形の開口が10ヶ所穿たれることで〈フレーム×並置〉の壁を形成し、《代々木の住宅》ではグリッド状に開口の配されたサーフェイスによる〈フレーム×並置〉の外壁や穿たれた開口が居室同士を視線で繋ぐとともに外の風景を取り込む〈フレーム×重層〉の内壁をデザインしている。《五ヶ山ダム水源地域建築物》プロポーザルでは遮蔽するフィルターとしてのソリッドなボリュームを配することで、視線を制御して眺望の良い光景をつくりだす〈フィルター×並置〉による計画である。

これらをふまえて、絵画的手法を取り入れたマルチ・フレーミング手法による建築空間モデルを設計試案《Parallax》として提案した。〈フレーム×並置〉・〈フレーム×重層〉・〈フィルター×並置〉・〈フィルター×重層〉というマトリックスに対応する4つのモデルによってそれぞれの手法をモデル化した。さらに、マルチ・フレーミング手法に関するマトリックスを元に、〈フレーム〉・〈フィルター〉といったフレーミング手法と、〈並置〉・〈重層〉といったマルチ・フレーミング手法による4つの要素が重なり合う構成の複合的な建築空間モデルを提案した。マルチ・フレーミングという複数のフレーミングを重ね合わせる絵画的手法を取り入れた建築空間モデルを提案することで、一つの空間に複数の視点が織り込まれた空間の可能性を提示している。

第5章は、各章の要約と結論である。

巻末には、作品収録として、本論の概念にもとづく設計作品である《群馬県神流町中里合同庁舎》（指導教授と共作）、《富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー》、《代々木の住宅》、《高円寺の集合住宅》、《世田谷の住宅》、《武蔵境新公共施設》（指導教授と共作）、《五ヶ山ダム水源地域建築物》、《天神・因幡町通り地下通路》、《鹿島のゲストハウス》、《美々津のゲストハウス》、《福智町立図書館・歴史資料館》を収録した。

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名 平瀬 有人 印 (2016年12月 現在)

| 種類別 | 題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む） |
|-----|---|
| ○作品 | 富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、日本建築学会作品選集 2017、2017年3月（掲載決定）、平瀬有人、平瀬祐子 |
| ○作品 | 富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、JIA 建築年鑑 2015、p.8-9、2016年6月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| ○作品 | 富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、新建築 2015年9月号、p.160-169、2015年9月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| ○作品 | 富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、日本建築学会 九州建築選 2015、2016年5月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| ○作品 | 富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー、日本建築学会大会 建築デザイン発表会 優秀発表、2015年8月、平瀬有人 |
| ○作品 | YNH 代々木の住宅、新建築住宅特集 2012年5月、p.110-117、2012年5月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| ○作品 | 神流町中里合同庁舎+神流町立中里中学校体育館、日本建築学会作品選集 2006、p.61-62、2006年3月、古谷誠章、平瀬有人、田中智之、小池啓介 |
| ○作品 | 神流町中里合同庁舎、新建築 2003年7月号、p.92-103、2003年7月、古谷誠章、平瀬有人、田中智之、小池啓介 |
| ○作品 | 神流町立中里中学校体育館、新建築 2004年7月号、p.168-175、2004年7月、古谷誠章、平瀬有人、田中智之、小池啓介 |
| 作品 | 小田部保育園、新建築 2015年4月号、p.128-131、2015年4月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| 作品 | KAH 熊本の住宅、新建築住宅特集 2013年3月号、p.150-159、2013年3月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| 作品 | HHH 博多の住宅、新建築住宅特集 2013年5月号、p.122-125、2013年5月、平瀬有人、平瀬祐子 |
| 作品 | SGR、日本の都市空間 2011-若手建築家による 50 の提案、新建築 JA82 号、2011年6月、平瀬有人 |
| 総説 | 集落が生きていくために建築家にできること—Orte Schaffen /場所をつくるということ—、新建築 2015年3月号、2015年3月、平瀬有人 |
| 総説 | 重伝建地区での修景・改修—文化遺産建築への「建築的介入」の試み、建築士 2014年08月号、2014年8月、平瀬有人 |
| 総説 | visible な地域性 invisible な地域性、新建築住宅特集 2013年1月号、2013年1月、平瀬有人 |
| 総説 | SWIS MADE 'architects' -スイス建築教育事情 2007、SD2007、2007年11月、平瀬有人 |
| 総説 | ライトインフラストラクチャーの素形 -山岳建築研究序論、SD2005、2005年11月、平瀬有人 |
| 総説 | 山岳建築が作り出す多様な造景、SD2005、2005年11月、平瀬有人 |
| 論文 | Research on the character of Izuhara city in Tsushima seen from the viewpoint of sightseeing、the4th international conference on Engineering, Project and Production Management、EPPM、2013年10月、Daikichi Abiru, Yujin Hirase |
| 著書 | 図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン、鹿島出版会、2015年12月、坂牛卓、平瀬有人、中野豪雄 |
| ○講演 | KFG 鹿島の酒蔵改修 [第II期]: Steel Wall gallery、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（関東）、2015年9月、平瀬有人、森部康司 |
| ○講演 | YNH 代々木の住宅、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（関東）、2011年7月、平瀬有人 |

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

| 種類別 | 題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む） |
|-----|---|
| 講演 | FHN 小田部保育園、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（九州）、2016年8月、平瀬有人 |
| 講演 | KFG 鹿島の酒蔵改修 [第1期]、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（近畿）、2014年9月、平瀬有人 |
| 講演 | 全周パノラマ画像を用いた空間の記述法に関する研究 視覚情報の定量化による佐賀クレーク集落の空間特性、日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、2016年8月、副田和哉、平瀬有人 |
| 講演 | 育まれる建築 再帰的環境文脈による建築群の設計、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（九州）、2016年8月、宮野弘詩、平瀬有人 |
| 講演 | Lattice APARTMENT 第11回「新・木造の家」設計コンペティション出展作品、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（九州）、2016年8月、荒牧優希、副田和哉、平瀬有人 |
| 講演 | ランドマークとしてのバルーントイレ 佐賀市嘉瀬川バルーントイレ改修プロポーザル応募作品、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（九州）、2016年8月、今利育美、副田和哉、平瀬有人 |
| 講演 | 村野藤吾の設計手法に関する研究—八幡市民会館の設計過程を対象として—、日本建築学会九州支部研究報告集、2016年3月、時祐太、平瀬有人 |
| 講演 | 吉村順三「軽井沢の山荘（吉村邸）」の設計背景に関する研究—「軽井沢式」に着目して—、日本建築学会九州支部研究報告集、2016年3月、福島有希、平瀬有人 |
| 講演 | 全周パノラマ画像を用いた空間の記述法に関する研究—佐賀クレーク集落のミチからみた空間特性—、日本建築学会九州支部研究報告集、2016年3月、副田和哉、平瀬有人 |
| 講演 | 日本建築学会設計競技提案パネルの建築表現に関する研究 課題テーマと描画内容の対象・範囲の関係について、日本建築学会九州支部研究報告集、2016年3月、村上尊由、平瀬有人 |
| 講演 | 近代建築への「建築的介入」の試み：八幡市民会館リノベーション学生提案展出展作品、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（関東）、2015年9月、時祐太、副田和哉、平瀬有人 |
| 講演 | 生起する中間領域：くまもとアートポリス2014アジア国際学生設計コンペティション出展作品、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（関東）、2015年9月、副田和哉、村上尊由、平瀬有人 |
| 講演 | アルド・ロッシ建築作品における作品間の関係性と変遷について、日本建築学会九州支部研究報告集、2015年3月、原田良平、平瀬有人 |
| 講演 | 透過性建築：開口を空間に展開させる設計手法について、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（近畿）、2014年9月、外尾昂之、平瀬有人 |
| 講演 | 建築ノーターションの変遷の研究：「新建築」誌の1970年-2010年を対象として、日本建築学会九州支部研究報告集、2014年3月、高辻宏海、平瀬有人 |
| 講演 | E.G.アスプルンドの設計手法に関する研究：外形ヴォリューム形態とランドスケープの関係性、日本建築学会九州支部研究報告集、2014年3月、松本季大、平瀬有人 |
| 講演 | 木質建築の新たな可能性に関する提案：都市の木質化プロジェクト「木と光の積層」について、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（北海道）、2013年8月、松本季大、平瀬有人 |
| 講演 | HHH 博多の住宅、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（北海道）、2013年8月、平瀬有人 |
| 講演 | アルネ・ヤコブセンの設計手法に関する研究：外形ヴォリューム分析による作品形態の変遷について、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、2012年9月、田中恭子、平瀬有人 |

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

| 種類別 | 題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む） |
|-----|--|
| 講演 | KAH 熊本の住宅、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（東海）、2012年9月、平瀬有人 |
| 講演 | 残置の地域再編、日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集（東海）、2012年9月、吉岡慶太、平瀬有人 |
| 講演 | High Fashion Exhibition Center Labels Berlin 2、UIA2011 東京大会 建築デザイン発表、2011年9月、平瀬有人、Tilo Herlach、Simon Hartmann、Simon Frommenwiler |
| 講演 | 避難小屋研究 その形態と立地環境の関係性、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、坪沼一希、佐々木朋恵、古谷誠章、平瀬有人、高田清之介 |
| 講演 | 首都高と広告看板の関係に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、竹尾昌、中村航、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | CGを利用した視界の定量化による空間の評価手法に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、日詰博文、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 中庭式住居論 中庭をもつ住居が密集・集合する都市または集落における住空間およびその延長としての中庭空間の研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、島田真弓、古谷誠章、平瀬有人 |
| 講演 | 町家の現代の利用状況にみるミセ空間とその周辺における空間形態の研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、塚本賀勇、古谷誠章、平瀬有人 |
| 講演 | 山岳地建築の空間構成に関する研究 その1 北アルプスにおける山小屋建築を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、平瀬有人、長森博人、古谷誠章 |
| 講演 | 山岳地建築の空間構成に関する研究 その2 山小屋建築の配置計画に関して、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、長森博人、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 廃校リノベーションプロジェクトへの学生参加に関する研究：新潟県上越市月影小学校再生に伴うワークショップを事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2006年9月、田中亜矢子、稲垣淳哉、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 地域型美術館にみる、周辺環境と導入空間に関する研究 第一種住居専用地域に立地する美術館の事例分析を通して、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、2005年9月、菱田和宏、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 公共建築の使われ方研究 都道府県立図書館を中心として、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、2005年9月、寺本薫、古谷誠章、平瀬有人 |
| 講演 | 大衆誌にみる住宅平面構成と所有物の変遷に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、2005年9月、尾崎悠子、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 主に対する従空間の形態が周辺に与える影響 従空間の配置方法、空間要素の差異からの分析、日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、2005年9月、鳥海宏太、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 公共建築建設プロセスへの住民参加に関する研究 群馬県神流町中里合同庁舎建設に伴うワークショップを事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、2004年8月、平瀬有人、田中智之、古谷誠章 |
| 講演 | 展示空間の系譜研究 空間のスケール・要素と分節に関する考察 ホワイトキューブ以降の空間把握の変遷、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、2004年8月、岡田朋子、平瀬有人、古谷誠章 |
| 講演 | 平面プランの記号化とその配列に関する研究 都市型集合住宅におけるデザインコンセプトの類型化、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、2004年8月、三星安澄、平瀬有人、古谷誠章 |
| | その他講演7件 |